

(株)SRAホールディングス 代表取締役社長の鹿島です。

本日、平成28年3月期決算を発表しました。今回の発表の要点は下記のとおりです。

「決算付属資料」、「平成28年4月 月次売上高速報」につきましても併せて発表しました。

詳細は、発表資料(<http://www.sra-hd.co.jp/>)をご覧ください。

(1)平成28年3月期 業績

◎対前年

- ・本業において[増収増益]

売上高:増収

粗利益、営業利益、経常利益のいずれも増益、営業利益率9.5%(過去最高)

- ・当期純利益:減益(特別損失の計上)

■[特別損失の計上]については後述(5)にてご説明させていただきます。

◎対業績予想

- ・当期純利益は下回ったものの、売上高、営業利益、経常利益は予想値を上回る

◎1株当たり配当金=70円[普通配当/前年比 15円の増配]

中間配当金25円、期末配当金45円(5円の増配)

■[特別損失の計上にも関わらず、増配する理由]については後述(6)にてご説明させていただきます。

(2)平成29年3月期 業績予想

◎売上高400億円、営業利益39億4千万円、経常利益41億25百万円、当期純利益26億67百万円

1株当たり当期純利益219.9円

◎1株当たり配当金=85円[普通配当/前年比15円の増配] [配当性向38.6%]

中間配当30円、期末配当55円

(3)平成28年3月期業績(連結) 前年比

◎売上高: 391億55百万円(前年比26億19百万円増/7.2%増)

主な要因

- ・開発事業(8.4%増)=製造、銀行、電力、流通が増加
- ・運用・構築事業(2.2%増)=企業向けが増加、大学関連はほぼ横ばい
- ・販売事業(6.9%増)=(株)AITの機器販売が増加

◎営業利益: 37億36百万円(前年比6億89百万円増/22.6%増) 営業利益率:9.5%(前年8.3%)

主な要因:売上増に伴う粗利益の増加、販管費の効率化

◎経常利益: 38億50百万円(前年比37百万円増/1.0%増) 経常利益率:9.8%(前年10.4%)

主な要因:前年は為替差益が発生、当年度は為替差損の発生等のため、前年比で微増

◎当期純利益:4億63百万円(前年16億38百万円)

◎1株当たり当期純利益38.4円(前年136.34円)

主な要因:海外事業投資先の企業価値の見直しを行なった結果、投資有価証券評価損および

貸倒引当金繰入額を特別損失に計上 [キャッシュアウトを伴わない一過性の評価損である]

(4)平成28年4月 月次売上高

(株)SRA、国内子会社、海外子会社=いずれも堅調に進捗

(株)AITは大型保守案件の更新受注が5月になったため、対前年で減少

<発表資料> [http://www.sra-hd.co.jp/ir/ir-news/index\\_2016.html](http://www.sra-hd.co.jp/ir/ir-news/index_2016.html)

---

(5)〔特別損失の計上〕について

1. 事業投資について

- ・当社は、事業投資に際して、様々な観点から調査し、リスクを見極め、最適なリスクヘッジを行なったうえで、投資を実施している。
- ・海外事業投資先のひとつである Proxim Wireless Corporation (以下 Proxim 社)については、第三者機関が事業計画に基づき、客観的な算定方法により企業価値を算出しており、これは投資額に見合うものと判断している。

2. 計上の理由

- ・当決算においては、純資産方式や DCF 法等に基づく投資資産価値および企業価値の算定について、考え方の差異がある中、議論を重ねた。その結果、会計の保守主義の原則に則り、Proxim 社に関して特別損失を計上した。

<特別損失 1,840 百万円>

(内訳) 投資有価証券評価損 569 百万円

貸倒引当金繰入額 1,271 百万円

- ・本件は、キャッシュアウトを伴わない一過性の評価損であり、特別損失である

3. 今後の対応

- ・投資先である Proxim 社は、ワイヤレスデータコミュニケーションにおける先端技術を有し、米国ベンチャーキャピタルと共同で資金及び経営の両面で支援を継続する。
- ・近年、経営を一新し、市場の選択と集中を推進することにより、引き合い案件数・金額は増大している。当社は現行の事業計画を着実に実現することで、投資資産の価値の増大が期待できると判断し、当社とのシナジー効果拡大を図っていく。

(6)〔特別損失の計上にも関わらず、増配する理由〕

- ・2015 年度決算では、本業において業績予想比、前年比のいずれも〔増収増益〕である。
  - ・特別損失の計上は、キャッシュアウトを伴わない一過性の「評価損」である為、配当利回りにも配慮し、増配とする。
- 

今後もSRAグループは、2016年度も企業価値ならびに株主価値の向上を目指し、努力邁進してまいります。皆様には引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。